

綾 町 × 南九州大学

# 目指せ！果樹生産力アップ

綾町と南九州大学は、平成28年綾町を「学びの場」としたさまざまな調本年度は、果樹の生産を後押ししようと、ブドウとイチを調査研究が行われています。その

に包括的連携に関する協定を結び、調査研究が進められることになりました。イチを対象に環境園芸学部の2つの研究室による内容や今後の展望を聞きました。



果樹園芸学研究室  
前田 隆昭 准教授



木の皮をむいて養分の流れを調整する環状はく皮作業



香月ワインズでブドウのせん定をする学生たち



環境保全園芸学研究室  
山口 健一 教授



環状はく皮は、木の皮を数ミリ幅でむくことで養分の流れを調整し、花がつきやすくなるようにする処理で、大葉系・クエイメイピンク・ノーマイチの3品種で行われています。合わせて、「六花」とい

います。環状はく皮は、木の皮を数ミリ幅でむくことで養分の流れを調整し、花がつきやすくなるようにする処理で、大葉系・クエイメイピンク・ノーマイチの3品種で行われています。合わせて、「六花」とい

イチは県が新たな特産果実として生産を強化しており、新富町を中心に約4トン生産されています。国内で流通する国産イチは約1%とわずかですが、新鮮な生イチは冷凍のものより芳香が強く味に深みがあるうえ、本県産のものはマンゴー栽培のノウハウが生かされ品質が良く、希少価値が高いと注目され始めています。

## ラ

イチは県が新たな特産果実として生産を強化

自然環境と調和する農法を長年推進してきた綾町で、その検証をするにも持続可能な循環型の栽培環境を整えることで、収量・品質の向上を目指そうと調査研究に取り組んでいるのが山口教授率いる研究室です。そのフィールドには、ブドウの無農薬栽培とワイン製造を行っている香月ワインズ（香月克公代表）の、ほ場の一部が利用されています。

調査は3つの項目について、昨秋から毎月1〜2回のペースで行われています。ひとつ目は、ブドウ畑の雑草の選別調査です。栽培に有益なマメ科などの雑草は残しながら、病害虫が繁殖する雑草や外来種を取り除くという、雑草の機能を活用した栽培方法が試行されています。ふたつ目は病害虫を識別し、その病害虫が好まないハーブなどを植えるといった総合防除に向けた試みです。最後は、せん定し

## 検証で生産拡充を後押し

自分で研究しながら手探りで栽培してきたという大隈さんは「生産現場の課題を解決するために、大学に協力してもらえるのは心強い。また、将来の農業を支える人材となる学生たちの学習の場として協力したい」と話されています。

う液肥も散布されています。5月末ごろから始まる収穫・出荷に向け、こうした処理により、安定して花が咲き実をつけるかどうか検証が進められていく予定です。また、花は咲く一方であり実を付けない品種があれば、水やりの量を減らしたり、受粉を促進するミツバチなどをハウス内に放すといった手法が試されることとなります。

## 循環型農法のモデルづくり

これらの取り組みの検証結果はブドウの収穫時期に明らかになる予定で、山口教授は「自然の力を最大限に生かした循環型農法のモデルになれば、綾町の自然生態系農業の取り組みがさらに推進されると思う」と意欲を見せられています。また学生にとっては、綾町の広いほ場での実習は貴重なおうえ、自然と共生を目指す理念や取り組みは学ぶところが大きいといい、卒業論文に綾町の農業を取り上げる学生も出てきているそうです。

# ユネスコエコパーク通信

## コラム モズ

漢字で百舌と書くように、ほかの鳥の鳴き声を真似するのが得意な鳥です。日本各地に分布し、農耕地や川原の木の枝や電線に止まっています。秋には「キーン」と高鳴きをしながらばりを主張し始め、2月ごろから子育てを行います。

20cm程と小柄ですが、鋭いくちばしで昆虫やトカゲ、小鳥まで襲って食べます。さらに捕らえた獲物を有刺鉄線や植木の枝に串刺しにして保存する「モズのはやにえ」という変わった習性があります。

かわいい顔をしています。ほかの小鳥からは嫌われていることも多い小鳥界のギャングなのです。



綾町で自主的な勉強会を開いているメンバーから依頼があり、古事記・日本書紀・宮崎にゆかりのある神話と綾町の神社にまつられている神様(御祭神)について話をする機会がありました。以前、綾町がユネスコエコパーク登録に至るまでの地域づくりの歴史について調査したことはありますが、最近は豪族の綾氏が登場する室町時代など、時間軸を広げて勉強している私にとって良い機会となりました。

「綾郷土史」(1965年発行)や「綾町制50周年記念誌 綾郷土誌」(1982年発行)などで調べてみると、町内の神社にはさまざまな神様がまつられていることが分かります。

例えば、綾神社では、「タラシナカツヒコ(第14代仲哀天皇)」「オキナガタラシヒメ(神功皇后=仲哀天皇の后)」「ホムタワケ(応神天皇=仲哀天皇と神功皇后の子)」の3神を中心に、1872(明治5)年9月に、当時の北俣村・南俣村にあった25の神社の御祭神を合わせてまつようになったとあります。

応神天皇はいわゆる八幡様で、武神として大分県の宇佐神宮を筆頭に全国の八幡神社でまつられていることで有名ですね。どのような経緯でこの三尊がまつられるようになったのか、それは資料に記載がないので、機会があれば調べてみたいと思います。

綾川荘の裏山の中腹にある熊野神社(権現様、今熊野三柱神社)では、神話にも登場する「イザナミノミコト」、「コトサカノオ」、「ハヤタマノオカミ」がまつられています。さらに、明見神社ではお正月の神様である「大歳神」が御祭神です。さまざまな神様がまちを守っているのですね。

ほかにも、田の神さあや馬頭観音、水神様など町内のあちこちで神様を見かけます。こうした神様は、地域の人たちに大切に守られてきたもので、地域の歴史が詰まっています。まだまだ知らないことがたくさん…日々勉強ですね!



地域おこし協力隊

つれづれ日記

綾町地域おこし協力隊 そが 曾我 すぐる 傑